

エコイノベーションの取り組み事例として、環境負荷低減のための企業の取り組みと、太陽光電池・燃料電池の開発といった電池メーカーの商品開発とを同列に取り上げて紹介している点である。企業や自分たちに何が出来るのか、何をすべきなのか、という視点で温暖化問題を捉えていれば、十分な現状認識の下に、もっと深い分析も可能になり、非凡な結論が導かれたのではなかろうか。

⑤グリーンツーリズム

発表者全員がグリーンツーリズムを楽しみ、広く普及させたいという気持ちが強いこともあってか、レジュメもパワーポイントも良く出来ていた。単なる参考文献からの知識の寄せ集めではなく、体験を基にした事例紹介もあり、グリーンツーリズムについてよく理解できる内容であった。グリーンツーリズムの理解を広めるためにインストラクターが必要だとの結論の導き方も自然で、説得的であった。報告内容も、レジュメ・パワーポイントの出来映えも良かっただけに、原稿の棒読みが気になった。

第6分科会

学校法人中村産業学園 顧問 平松 正士

1. 分科会全体に対する講評

今回初めて本学商学部グループ研究発表会に参加させていただきました。学生諸君がどのような研究をしているのか、また、どのような発表をするのか、私は非常に興味をもっていましたので、二つ返事で審査員をお受けしましたが、身の程知らずと後で後悔しております。第6分科会の5つのテーマを見ますと、全て学生諸君の身近な問題であり、背伸びをせず素直な態度でグループ研究に取り組めたのではないかと推察します。

私は、指示どおり4つの点、すなわち①プレゼンテーションの技術、態度、②パワーポイントの出来映え、③レジュメの出来映え、④テーマ設定および報告内容について、審査させていただきました。

5つのグループ発表は、学生らしい元気に満ちた素晴らしい出来映えで私は感動しました。全体的に見て、きちんと整理された資料とパワーポイントによる説明も要領よく明瞭に、そして整然と進められていました。また、それぞれの主張もよく理解することが出来ました。

ペーパーだけに頼らず、実地調査を実施した上で結論づけるなど、研究の基本を忠実に実行されていたと思います。制限時間内での発表は難しいと思っていましたが、各グルー

ブはきちんと時間内にプレゼンテーションを終え、時間配分も適切でした。

このようなグループ研究は、社会に出てから必要な協調性、積極性、コミュニケーション能力などを養うことが出来るまたとない絶好の機会です。この発表会が年を追って益々充実するよう願っています。

2. 各グループに対する講評

①ユニクロの未来は明るいのか?～好価格戦略の検証～

まず、問題の背景について説明があり、次に本論に入り、資料の分析、店頭調査、類似他企業との比較を経て結論に至る経過は良く整理されていてよく理解出来ました。類似他企業であるGAPを事例にして、高品質商品は別ブランドでとの提案までの説明は無理なくまとめられていると思いました。パワーポイントも良く出来ていました。発表日の前日、パリに1号店進出のニュースが流れていましたが、最新の経営戦略も少し追加すると、なお信憑性が出たのではないかと思います。また、マーケティングや財務などに関する統計資料もあれば、もっと理解しやすくなるのではないのでしょうか?

②九産大の授業について～九産大生の授業に対しての考えと学生の望む授業とは?～

5つのテーマの中で一番身近なテーマでし、レジュメも簡潔で要点もよく整理されていました。パワーポイントも、カット絵が入っているなど、工夫されていました。学生の授業に対する考えと望んでいる授業をアンケートにより調査した結果を改善に役立てたいとの目的でした。提案の要点が説明されましたが、大学側も是非検討して改善すべきでしょう。

補足として、1・2年生を対象としていないので、今後1・2年生のアンケートも実施予定、また教員側の意見も取り入れて授業の改善をすべきだとしています。ただ、始めから終わりまで資料を読みながらの説明は今後工夫して欲しいと思います。前を向いて聴衆に話をする方が説得力を増します。

③なぜ、若者は三年で会社を辞めるのか!?～インターンシップからの考察～

若者の早期離職は社会的に重要な問題です。プレゼンテーションは、このテーマを選んだ理由、インターンシップの現状の調査結果、そして結論、今後の課題と要領よくまとめられており、良かったと思います。パワーポイントでの画面も、簡潔に見やすく工夫されており、良くまとめられていて感心しました。

学生の皆さんにとっても就職活動の参考になるのではないかと思います。年功序列の問

題も含めて、もっと広い視野で早期離職を研究して欲しいと思います。

④LOCAL PUBLIC FINANCE～Breakdown Rankingから見た地方財政～

プレゼンテーションが、すごく良かったと思いました。説明者は、原稿なしで理解しやすいよう親切に、そして簡潔に自分の言葉で話をされ、好感が持てる進行で、スムーズに結論まで導く技術には感心させられました。

現在、国も含めて、財政問題は緊急の課題であり、テーマの設定も報告内容も良い出来映えでした。

レジュメも、読みやすく良くまとめられていました。ただ、破綻予知だけでなく、その改善方法についても研究して欲しかった。特に福岡市や北九州市など近隣の都市についても引き続き研究してもらいたいと思います。

⑤中小企業における人材確保の問題点と改善方策—本校生の意識調整結果を中心として—

韓国の忠南大学校の学生によるプレゼンテーションですが、言語の障壁をのり越えた素晴らしい内容のものでした。これは、事前準備の努力の成果だと思います。パワーポイントの出来映えも非常に良く熱心さが伝わって来ました。日韓両国ともに中小企業への就職はいま一つ人気がないようです。提案のとおり、改善策を出来るものから直ちに実行すべきであり、学生の立場からも遠慮なく問題提起をしていくべきであるとの意見には賛成です。日本では、企業を選べない学生が増加していると言われています。今後とも、就職問題のテーマは続行してもらいたいと思います。

3. おわりに

グループ研究発表後、閉会式が行われ、各グループ毎に優秀賞が選ばれましたが、第6分科会における5つの発表はいずれも熱心な研究発表であり、甲乙つけ難いものでありました。

7つの分科会における各審査員の講評も、学生の若者らしい元気あふれる発表に感銘を受けたとの事で、私も本当に良かったと思います。

また、本学の国際交流校である韓国の忠南大学校経商大学の学生も参加されており、真の国際交流を目のあたりにして感銘を受けました。今後とも是非交流が続くことを願ってやみません。

最後に、九州産業大学の建学の理想である「産学一如」のもとに、学生諸君が大学生活

の中で大切なものを見失うことなく、ゼミナールを通じて、先生方の熱心なご指導のもとに、活発な研究活動を行っておられることに拍手を送ります。

(財) 運輸政策研究機構運輸政策研究所 研究員 大井 尚司

1. 分科会全体に対する講評

大学院生のような本格的な研究者育成ではないので、客観性、論理性中心に評価することにした。ただ、辛辣なことも書いているかもしれない。その点は、皆さんの今後の社会活動での糧になるものと考えて頂き、お許し頂ければ幸いである。

2. 各グループに対する講評

①ユニクロの未来は明るいのか？

ユニクロの昨今の販売戦略転換に対して、消費者からの疑問を呈したのが本研究であった。ユニクロとの比較対象としてGAPを取り上げ、データとヒアリングにより、ユニクロの目指す方向性を示唆した点は面白い着眼点であった。

ただ、ユニクロに何かを提示しようとするのであれば、ユニクロの過去の戦略の変遷は、書物や雑誌記事でも多数存在するので、よく踏まえて議論すべきだろう。また、比較対象としたGAPとは価格層や商品の差異がある。面白い研究になるものと期待されるが、全体の構成がやや練られていない部分もあり、分析不足の感は否めなかった。

②九産大の授業について

「顧客」である学生側からの授業評価をアンケート調査で試みたのが本研究であった。着想のよさ、主張の客観性は高く評価できる。特に、授業の価値に関しての問題提起は、全ての学生が傾聴に値するものであった。学校の抱える問題と直結し有益であり、大学・教員側の連携含め研究の発展が期待される。

今後の改善のために、以下の3点を指摘したい。まず、講義をする教員側の「出席・集中」させる戦略も考慮すれば、多面的な分析になったであろう。第二に、学生側にも改善点があることを織り込めば、教員や事務方の理解を得られよう。最後に、「どちらでもない (普通)」という回答が多いが、「中間」の評価なのか「適当 (いい加減)」かは、解釈上・調査上の工夫が必要であろう。

③なぜ若者は三年で会社を辞めるのか！？

同名の書籍とホテル業の調査を参考に、インターンシップ活用によるミスマッチ防止を提言している。評者も企業での就業経験があり、着眼点や内容は非常に興味深かった。ただ、基本事項に関する理解に根本的誤りがあり、評価は低くせざるを得なかった。

企業のインターンシップは、一般には採用判断や採用後の人材配置とは連動していない。また責任上の問題から、任せられる業務には制約がある。実態の正確な理解は、全ての思考の基本である。評者は、発表者の主張には一定の理解を示すが、特定の本に依存した分析はあまり好ましいと思わない。最近の本には、内容に疑念があるものが少なくないので、「選別眼」を身につけることが今後の発展につながるであろう。

④Local Public Finance

自治体の財政破綻問題に着目し、公表データで定量的・客観的に解析したものである。仮説や研究手順・構成も良く、完成度は極めて高かった（正直、研究者と自称する人の研究の中には、これよりも質の低い研究が山のようにある）。

本研究の完成度を上げるためのコメントを3点述べておきたい。まず、『週刊ダイヤモンド』『東洋経済』などの都市ランキング等と比較することが今後必要であろう。次に、データ出所は必ず公式の資料を使うようにしてほしい。最後に、建設費が「無駄」か、自治体の「隠れ借金」（第三セクターの負債など）の考慮、などの吟味をぜひして頂きたい。これらは贅沢な要求かもしれないが、皆さんであれば可能であろう。

⑤中小企業における人材確保の問題点と改善方策

韓国の学生へのアンケート調査を通じて、中小企業の人材不足解消のための就職支援の方向性を提示したもので、論点整理や示唆は明確であった。本発表の対象は日本でも重要な問題であり、得るものは大きいと思われる。

気になった点を1つだけ指摘しておきたい。本研究で、中学校・高校での中小企業についての教育を要請したり、教授の就職活動の強化を要請するような説明があった。しかしこれは、就職の自由を公権力で拘束するように取られかねない主張であり、かなり問題があると考えた。公権力による誘導が必要なのは、若者や中高年の就業困難者の雇用であって、特定企業への就職誘導は教育で行うことではないものと思われる。

3. おわりに

今回の研究報告では、身近にある問題を自らのものに引き寄せて、それを客観的に考えようとするトレーニングとしては有効であったと思う。また、全体的に2回生の健闘が目立った。今後の一層の奮起に期待したい。

物事を考え、他人に訴えるには、「客観性」、「論理性」に加え、「相手を見ているか」が重要になる。まとめると「他者の目」を意識しているか、ということである。今回の報告会では、文献の少なさ、インターネットへの極端な依存、わかりにくい表記、授賞式の際の態度、が正直かなり気になった。「他者の目」を考慮することは、これからの生活で必須の能力である。ぜひ、今回の反省として頂きたい。

第7分科会

株式会社スターフライヤー 常務取締役営業本部長 武藤 康史

1. 分科会全体に対する講評

初めて研究発表会に参加させていただきました。学生諸君の心地よい「勢い」が感じられたし、楽しくもあり、感心させられた一日でもありました。

また、プレゼンテーションも相当練習を積んだ後が窺え、好感が持てました。一本調子になる面は否めませんが、発表自体はグループみんなの意気込みが伝わって、全般的にとっても優れていたと思います。

研究発表は全部で7つの分科会に35の発表があり、それぞれに興味深いテーマが選ばれていました。ざっくり分けると①観光・旅行産業②地域経済③流通・サービス産業④社会学・人類学⑤九産大 というようなテーマの括りといえるでしょうか。これを各分科会に異なるテーマをちりばめて（ミニシアター的、ですね）発表・審査しているのですが、分科会ごとの様子を見ますと「発表した段階で終わっている」という感があるのと、他の発表との比較において自分達がどうだったのかは審査員任せで、他グループの内容にはあまり興味がない風情が伝わってきました。このあたり、今後もう少し改善の余地があるように思います。（自分の発表が終わると皆さんすぐに教室からいなくなっていましたね）

また、別の分科会で同じテーマがかぶっているケースもありました。むしろ同じカテゴリーごとに分科会を形成し、「優劣・違いが明確に見えやすい形式」にすることで、自分達の位置（優劣）を自覚し、今後の改善意欲をかき立てるというやりかたもあるのかもしれない。